

2024 年度モンゴル活動報告

期 間：2024 年 8 月 22 日～8 月 26 日

場 所：ウランバートル

参加者：兵藤 透（ふれあいクリニック泉）、内田 潤次（大阪公立大学）、中倉 兵庫（天の川病院）、長沼 俊秀（大阪公立大学病院）、松井七海（大阪公立大病院）、中西 理沙（大阪公立大病院）、高橋 蓮（城西病院）、牧野 綾子（聖隷クリストファー大学）、小久保 謙一（国際委員会）、北島 幸枝（国際委員会）、矢部 広樹（国際委員会）、黒田 沙織（国際委員会）、松原 弘和（国際委員会）、小林 こず恵（国際委員会）、花岡 吾子（国際委員会）

今回、6 回目となる Mongolia-Japan the 6th joint seminar on hemodialysis technology and treatment for chronic kidney disease 2024 をモンゴル国立第一中央病院およびモンゴル透析学会と JSTB の共同開催にて 2 日間に亘り実施した。初日のハンズオンセミナーでは、①Vascular access group 1（国立第三中央病院 MeDvic II 透析センター）、②Vascular access group 2（国立第二中央病院）、③Vascular access group 3（ICU 透析センター）、④Nursing management for dialysis patients Group（国立第一中央病院）、⑤ Physiotherapy for dialysis patients Group（国立第中央一病院）、⑥ Visiting in national center for maternal and child of Mongolia Group（モンゴル国立母子センター）の 6 グループに分かれセミナーを行った。①～③の Vascular access group は、講義形式でプラスチック針を使用した穿刺技術について説明を行った後、血管モデルとプラスチック針を用いた穿刺トレーニングおよびディスカッションを行った。④Nursing management for dialysis patients Group は食事に関する聞き取り調査と栄養評価およびリン管理についての講義を行った。⑤ Physiotherapy for dialysis patients Group は身体計測（大腿周囲径、下腿周囲径、上腕周囲径、皮下脂肪厚、握力）と筋力測定（非シャント肢の握力）、および運動習慣や就労の有無の聴取を行った。評価の様子を現地の医師・理学療法士に実際に見て頂き、評価方法や意義をレクチャーすると共に、透析前に実施する評価（膝伸展筋力、歩行速度、SPPB など）についても、実際の測定機器や測定方法を踏まえて、レクチャーを行った。⑥

of Mongolia Group はモンゴル国立母子センターの見学、2 症例に対してグループディスカッションを行った。

2 日目は講義形式で日本から 3 名の国際委員を含む 9 名が英語で現地の医師、看護師、テクニシャンに講義を行った。その際、現地の通訳者にモンゴル語への同時通訳をお願いした。内容は、大阪公立大学の内田潤次先生より『Kidney transplantation as renal replacement therapy』というタイトルで腎移植における免疫抑制療法および日本では献腎移植の件数が極めて少ないことから ABO 血液型不適合生体腎移植が行われているとの講義や、同大学の長沼俊秀先生から『Management and Surgical Treatment of Secondary Hyperparathyroidism』というタイトルで二次性副甲状腺機能亢進症の管理と外科的治療と『The New Technologies and Equipment of Vascular Access Therapy in Japan』というタイトルでバスキューアクセスにおける新技術と新しいデバイスに関する講義があった。同大学の松井 七海先生から『Clinical practice of peritoneal dialysis』というタイトルで腹膜透析におけるカテーテルの挿入方法や合併症の外科的治療に関して講義があった。また、天の川病院の中倉兵庫先生より『Chronic Kidney Disease and dialysis treatment in children』というタイトルで慢性腎不全の小児に対する腎代替療法に関して講義があった。城西病院の高橋蓮先生から『Physiotherapy for hemodialysis patients』というタイトルで透析患者の運動療法に関する講義があった。国際委員会らは、小久保委員長より『New classification of uremic toxin and dialysis techniques』というタイトルでハイフラックス膜を用いた血液透析と透析液におけ

る水質管理の重要性に関する講演を行った。北島委員は『Phosphorus management for hemodialysis patients and introduction of a low-protein diet for CKD patients』というタイトルで透析患者のリン管理と CKD 患者への低タンパク質食の導入に関する講義を行った。黒田委員

は『Peritoneal dialysis exit-site nursing care』というタイトルで腹膜透析における出口部の看護ケアに関する講演を行った。モンゴル全土から医師、看護師、エンジニアおよびテクニシャン 160 名を超える参加があり、今年も例年通り活気に満ちた開催となり、滞りなく終了した。

- Vascular access group 1



- Vascular access group 2



- Vascular access group 3



- **Nursing management for dialysis patients Group & Physiotherapy for dialysis patients Group**



- **Visiting the national center for maternal and child of Mongolia Group**



- **Joint Seminar**

